

『徹底検証 朝日「慰安婦」報道 読売新聞編集局』

レポート発表

180781195 杉本 匠

本選定の目的

- 韓国との歴史問題や中国の経済について興味を持っていたため
- 前回読んだ「外交ドキュメント」は日・中・韓の歴史認識について述べた本であったため
- 「慰安婦問題」「習近平政権の中国経済」の理解を深める目的

概要

- 「従軍慰安婦問題」の朝日新聞報道が与えた影響を論じた本
- 具体的な虚報や誤報
- ①吉田証言②慰安婦人数の誤り③軍関与を示す資料
→ 「従軍慰安婦問題」に対する世論・韓国・世界に誤った日本の見方を与えた

①虚偽の「吉田証言」 繰り返し掲載

吉田清治氏による「裏付け証言」のない真偽不明の「慰安婦狩り」「慰安婦強制連行」の証言を繰り返し掲載



②挺身隊と慰安婦の混同による慰安婦**20**万人報道

挺身隊と慰安婦の混同

- 「従軍慰安婦」の用語解説を掲載し、「女子挺身隊」などの名で前線に動員され、慰安所で日本軍人相手に売春させられた女性たちの俗称」と定義した

慰安婦**20**万人の誤り

- 「主として朝鮮人女性を「挺身隊」の名目勧誘または強制連行し、兵士たちの性の相手をさせた。その推定人数は**8**万人から**20**万人」と説明した

③軍の関与を裏付ける資料の発見

- 92年朝刊1面に「慰安婦 軍関与を示す資料」の見出しで「スクープ」記事を掲載
- 日本政府は「民間業者が慰安婦を連れて歩いた」とし、国としての関与を認めていなかったが、国の関与を示す資料が防衛庁から見つかったことで政府見解が揺らいだ

記事の内容

①慰安所の設置に日本軍が関与し、募集を含めて統制・監督をした②慰安所の募集は強制連行で行われ、その数は最大**20**万人と推定される③謝罪や補償を求める日本政府への圧力が高まっている という内容であった

資料概要

- 陸軍省が中国大陸へ派遣していた各軍への通達文などを綴った「陸支蜜大日記」
- 慰安婦募集の際の注意点や業者選定についての内容
- 要約すると「問題を起こす業者が少なくないので、今後は募集について軍が統制し、業者を監督するように」

意図的な「強制性」を主張した報道

- ①「業者の違法行為を止めさせる「善意の関与」」
- ②「慰安所と軍・国家の関係の隠蔽化方針を軍司令部に周知徹底させる指示文書」

→日本軍が民間の慰安婦業者を統制下に入れようと試みたもの

⇒日本軍による強制連行を裏付ける内容ではない

朝日報道の「核心」

- ①・②・③が‘朝日報道の「核心」’であり、
「日本軍が組織的に大量の朝鮮人女性を慰安婦として
強制連行した」ことを歴史上の事実とした告発キャン
ペーンを行った

朝日報道が与えた影響①

- ジュネーブの国連人権委員会では**1994**年、女性に対する暴力についてまとめた「クマラスワミ報告」を公表。慰安婦の人数を朝日新聞が報じた**20**万人と言及し、この論拠の多くは朝日新聞が報じた吉田証言を引用

⇒世界に日本の誤った見方を広げた

朝日報道が与えた影響②

- 「強制連行への軍関与」という印象が広がる
⇒ 慰安婦問題は日韓間の政治問題に急浮上し、韓国の激しい対日批判や「慰安婦像」の設置運動、米国下院では慰安婦問題で日本を非難する決議など その影響は広く波及している

結論①

- 朝日新聞が慰安婦問題にこだわるのは、歴史「事実」に直視をとという信念からである
- 正確な証拠がない中での見込みや推定での報道は歴史事実を直視しているとは言えない
- 朝日新聞の報道が、誤った世論形成・反日批判を煽っている

結論②

- 本来のメディアの機能としての政府の監視や、中立的な立場の報道から歴史事実を直視し、慰安婦問題の解決の糸口となっていくことを期待し、今後の朝日新聞の報道に注目をしていきたい。